



総合教育センターだより



京都府総合教育センターは創立30周年を迎えました



平成22年6月16日(水)
第15号(通算第98号)
京都府総合教育センター
TEL 075-612-3266

新たな発想で学校・教職員を支援

すなみ 角南ちえみ所長就任

就任のごあいさつ

樹々の緑も深みを増し、あじさいが七色に変化する6月・・・
このたび5月26日付けで京都府総合教育センター所長を拝命しました。



これまでの優れた研究成果や研修実績を更に継承・発展させ、「学校・教職員を支援するセンター」として、子どもたちと深く響き合う人材の育成を支援して参りたいと思います。

センター創立30周年を迎える本年・・・
これまでの“熱い思い”と“優れた実践”を踏まえ、
これからの“新たな発想”と“確かな展望”のもと、
闊達自在に所員一丸となって取り組んで参ります。

ネットいじめをしない、させない、許さない!

～子どもたちをネット被害から守るために～

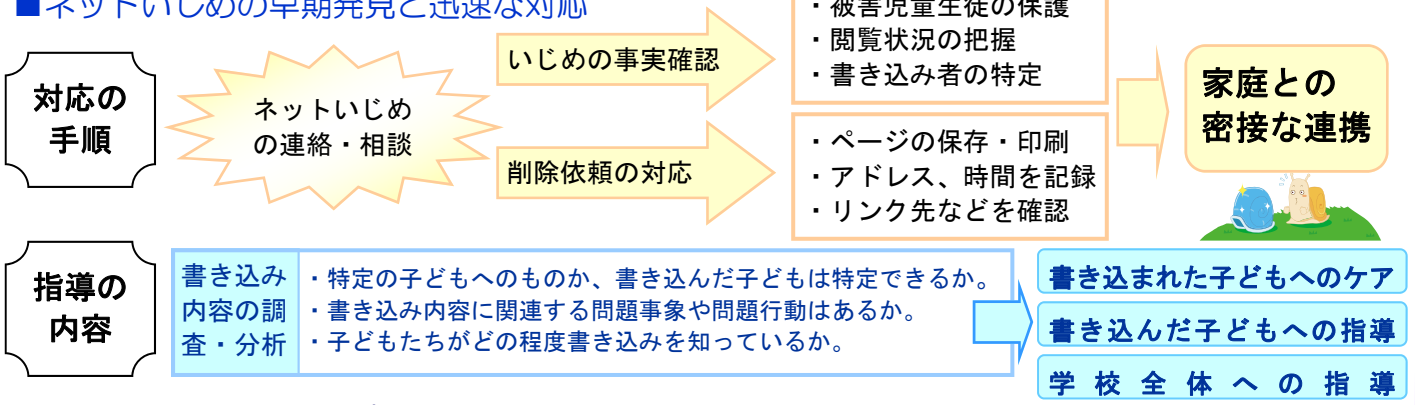
情報化により有益な情報を容易に入手できるようになった反面、インターネット上では、児童生徒を巻き込んだ様々なトラブルが起きています。「ネットいじめ」や「有害サイト問題」など、生徒指導上多くの問題があり、その対応は、喫緊の課題となっています。



■情報モラルの指導

- ・情報化の光と影の部分を十分に理解した上で、学校全体で取り組む。
- ・情報教育、道徳教育、人権教育と関連させ、児童生徒の自制心、責任感、判断力を培う。
- ・児童生徒のコミュニケーション力を高めて、豊かな人間関係をつくる力を育成する。

■ネットいじめの早期発見と迅速な対応



(参考) 京都府情報モラルポータルサイト <http://www.kyoto-be.ne.jp/kyomorai/>



24時間
電話教育相談

シリーズ②

「ふれあい・すこやかテレフォン」から

5月号では、センターの「ふれあい・すこやかテレフォン」に寄せられた約3000件の電話教育相談内容の中から、「子育てに関する相談」「いじめに関する相談」を取り上げ、学校での指導に役立つと思われる点を整理しました。

今月号は、「学校での指導に対する不満」「不登校に関する相談」を取り上げ、対応のポイントを述べたいと思います。



学校での指導に対する不満

相談の特徴 学校の指導に対する苦情を中身とする相談件数は、前年度に比べて30%減少しています。

事例

- ・前の学期より成績表の評価が下がったが、その理由がわからない。
- ・子どもが怪我をして帰ってきたが、学校から何の連絡もない。
- ・きちんと話も聞かず、いじめの加害者と決め付けられた。

学校での対応のポイント

- 学校の教育活動について、保護者等に日常から積極的に説明を行う必要があります。
 - 問題行動等の指導に際しては、指導の意図が伝わるように、丁寧に対応する必要があります。
 - 保護者等から苦情が寄せられた際には、表面に現れている「問題」の裏に隠された「本当に訴えたいこと」を十分に聴き取ろうとすることが大切です。
 - 特に初期対応と組織的対応が大切です。
- ※センター作成「信頼ある学校を創る(H19)」「信頼ある学校を創るⅡ(H21)」を参考にしてください。

不登校に関する相談

相談の特徴 不登校に関する相談は、特に中学生の保護者から多く寄せられています。その多くは、担任やスクールカウンセラーをはじめとする学校関係者に相談していますが、16%の人は学校関係者に相談していません。



事例

- ・友人関係のもつれから登校できなくなり、引きこもり状態となっている。
- ・学校に居場所がなく登校できない。
- ・学業不振から登校できなくなった。

学校での対応のポイント

- どんなことでも相談できる体制を整えておき、欠席が続いたら早期に家庭と連携をとることが大切です。
- 友人関係のもつれから不登校になる事例が多いので、常に子どもの人間関係の変化にアンテナを向けておく必要があります。
- 直接足を運び、会って、話すという直接的な関係に努めることが必要です。
- 本人の「悩む力・登校し得ていた力」を支持し、解決の主体としての本人の力に注目する姿勢で支援することです。

ふれあい・すこやかテレフォン

075-612-3268・3301
0773-43-0390



メール教育相談

sukoyaka@kyoto-be.ne.jp (携帯電話から相談される場合、迷惑メール対策でメールの着信拒否等の設定がされていると、返信メールが受信できないことがありますので、設定を解除しておいてください。)



センターからの一言

「昨日の自分」より、「今日の自分」はどうか。今日の自分が「明日の自分」を創る。また、「人にどう見えるか」ではない。「自分がどうあるか」だ。考えたい・・・。

